

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「忘れもの / ぼくは川」 教材名「忘れもの / ぼくは川」

2 単元の目標

詩の内容のまとまりを意識して音読することができる。詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもつことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①詩の内容のまとまりを意識して音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもっている。（C(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

詩を音読し、言葉から想像したことと感想を対応させる。作品に書かれていない状況を先に決めず、児童が本文の言葉を挙げて説明する。学習指導要領のC(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

教科書の本文を手元で読み、言葉の箇所・そこから想像したこと・自分の感想を別々の欄に書く。教師は作品の情景を先に説明せず、児童が選んだ語に戻して想像を確かめる。おおむね満足できる状況は、詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもっているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○詩を声に出して読み言葉の響きを確かめる。想像の根拠になる語を選ぶ。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本 時）	○感想とその理由を伝え合う。想像したことを音読で表す。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもつことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「どの言葉から、どんな様子や気持ちを想像しましたか」 【めあて】詩を音読し、言葉から想像したことと感想を対応させる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ行でも区切りで印象が変わった。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「どの言葉から、どんな様子や気持ちを想像しましたか」 感想とその理由を伝え合う。想像したことを音読で表す。選んだ言葉の箇所、想像したこと、感想と音読の工夫を示すメモ。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ行でも区切りで印象が変わった。 ・友達は自分と違う言葉を選んだ。 ・初めは気付かなかった言葉が感想の理由になった。	教科書の本文を手元で読み、言葉の箇所・そこから想像したこと・自分の感想を別々の欄に書く。教師は作品の情景を先に説明せず、児童が選んだ語に戻して想像を確かめる。 想定するつまずき：題名だけから筋を作る、詩の内容と自分の経験を混ぜて根拠を説明できない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもっている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・初めは気付かなかった言葉が感想の理由になった。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どの言葉から、どんな様子や気持ちを想像しましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

